

第一回 プロテクション アンド アドボカシー学会 —PandA学会— (日本司法・共生社会学会) 設立総会 (2015年1月24日~25日) のお知らせ

時下、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

この度、第一回プロテクション アンド アドボカシー学会—PandA学会 (日本司法・共生社会学会) 設立総会を以下のように開催することにいたしました。全国の障害のある人の権利擁護に関わる支援者、当事者の皆さまにはぜひご出席を賜りますよう宜しくお願い致します。

会長 内山登紀夫 (福島大学大学院)

記

日 時： 平成27年1月24日(土)~25日(日) 9:20 ~ 17:30 (受付9時~)
1月24日(9:30~17:30)、1月25日(9:20~17:00)

場 所： 東京国際フォーラム会議室 G402 会議室他 (東京都千代田区丸の内3丁目5-1)
JR 有楽町駅より徒歩1分 *申し込み方法は裏面に掲載してあります。

第I部 【 厚生労働省科学研究 (内山班) 報告会 1月24日 9:30~12:30】 「青年期・成人期発達障がいへの対応困難ケースへの危機介入と治療・支援に関する研究」

【第一基調講演】

『自閉症スペクトラム障害と触法をめぐる課題』

リチャード・ミルズ氏 (Richard Mills 英国 リサーチオーティズム 研究部長)
英国バース大学心理学部 名誉リサーチフェロー。オーストラリア ボンド大学心理学部自閉症スペクトラムセンター 上級リサーチフェロー。英国ケント大学ティザーードセンター (障害学研究センター) 講師・コンサルタントアソシエート。
その他、知的障害のある対応困難な子どもと大人のための NICE (英国国立医療技術評価機構) ガイドライン開発委員、パチカンの教皇庁保健従事者評議会主催の自閉症国際会議で座長。

研究報告・コメンテーター

榊屋二郎 (福島大学子どものメンタルヘルス支援事業推進室、関東医療少年院、精神科医)

第II部 【 PandA学会 1月24日 13:30~1月25日 17:00】

【第二基調講演】

(1月24日 13:30~14:10)

『日本司法・共生社会学会に期待すること—共生社会を創る愛の基金の設立経過と目指すもの』 村木太郎 (社会福祉法人南高愛隣会理事、共生社会を創る愛の基金顧問)

: 本学会はこれまで、共生社会を創る愛の基金で研究活動を進めてきた。愛の基金の設立の経過と理念、さらに今後の社会的な広がりや展望などを講演いただく。

【学会企画シンポジウム—1】

(1月24日 16:30~17:30)

『学会の展望を語る—各コロキウム研究がこれから積み重ねていきたいこと』

: 各コロキウム研究+野沢和弘 (毎日新聞、PandA学会副代表) が学会の今後を語り合う

【第三基調講演】

(1月25日 13:50~15:20)

『イギリス他での警察官に向けた自閉症スペクトラム障害の啓発・教育』

リチャード・ミルズ氏

: イギリス他で実践されている警察官に向けた発達障害特性の理解や啓発、取り調べ等における配慮などに関する教育の在り方について、調査研究を含めて講演いただく。

【学会企画シンポジウム—2 ; リチャード氏講演を受けて】 (1月25日 15:30~17:00)

『わが国におけるK-p r o警察プロジェクトの取り組みと今後の展望』

野沢和弘、関哉直人 (弁護士・全日本手をつなぐ育成会連合会権利擁護委員)

村山園 (千葉県手をつなぐ育成会権利擁護委員長) コメンテーター 辻川圭乃 (弁護士)

【設立趣旨 プロテクション アンド アドボカシー学会—PandA学会（日本司法・共生社会学会）】

生きにくさが理解されず、いじめられ孤立した末に引きこもり、家族への暴力を繰り返す。ある日とんでもない事件を起こしてしまう。お金がない、仕事がない、家族がない、相談できる人がいない……お腹がすいてコンビニでおにぎりを万引きしてしまう。うまく言い訳もできず、警察に逮捕される。警察や裁判でも反省を表すことができず凶悪犯のレッテルを張られて厳罰にされる。刑務所などの矯正機関でも適切な支援を受けられず、釈放されても孤立している。彼らを支援する人材もシステムも整っていない。あなたはそんな人にかかわったことはありませんか？再犯を防止し安全な社会を実現するためになんとかしたいと思ったことはありませんか？

PandA学会は、これまで村木厚子さんの共生社会を創る愛の基金でトラブルシューター養成事業などを実施してきました。愛の基金の理念を今後も継承し、さらに社会的な広がり自立した活動を目指して学会を設立します。

PandA学会は、福祉や司法や医療や教育やジャーナリズムにかかわる専門職や支援者が集まり、情報交換しネットワークを作り、科学的な方法で調査研究を行い、政策提言や情報発信や啓発、人材育成などに取り組みます。家族や地域の傘の下で守られていた人たちが、社会の変化とともに行き場をなくして漂っている。そうした人々を包み込み真の共生社会の実現に向けて活動します。学術的な研究だけでなく専門領域を超えた実践を重視します。

【運営】 会 長；内山登紀夫、副会長；堀江まゆみ、野沢和弘
理 事；大石剛一郎、辻川圭乃、安藤久美子、榊屋二郎、浦崎寛泰、大門亘
運営委員会；山田恵太、関口清美、山口春美、高橋春菜、他

- 【事業】 1. 我が国および各国における障害のある人の権利擁護に関する総合的な学術学会とする。
2. 司法、医療、矯正・保護、福祉、教育、当事者等権利擁護に関わる多様な立場が参加する場とする。調査研究、政策提言、情報発信、人材養成、実践研究等を行う。
3. 学会は、以下の10分野のコロキウムから構成する（コロキウムとは相互に議論する場）。
4. 各コロキウムは年1回の総会で報告するとともに、それぞれの目的に沿って、年間にわたり、各地で複数回のコロキウムの場を企画し、継続的に議論の場を開催していく。

《第一回 学会プログラム》 *以下はテーマごとの日時。テーマや時間は多少の変更の場合もあります。

学会直轄コロキウム『全国トラブルシューターネットワーク会議』

；全国各地で現在、「障害者を社会につなぐ新たな人材養成」TS基礎講座およびアドバンス講座が開催されており、各地のネットワークも進められている。今後、学会認定人材養成を実施する。
各地ネット；東京TSネット、多摩TSネット、関西TSネット、栃木TSネット、滋賀TSネット、富津TSネット、仙台TSネット、静岡TSネット、名古屋TSネット、富山TSネット、徳島TSネット、福岡TSネット、長崎TSネット、ほか、横浜、小樽、鳥取、和歌山、長野、山形、大分などで開催。
◎ポスター発表「全国におけるTS活動とその成果—今後の新たな人材養成を目指して」
全国事務局；堀江まゆみ（白梅学園大学、PandA学会副代表）、山口春美（関西TSネット事務局）

第一コロキウム『裁判と障害者事件をめぐる課題』

【1月25日 9:20～10:50】

大石剛一郎（弁護士）「知的・発達障害者の事件、何が一番大変か—裁判における意思の支援とは」

；知的・発達障害者の事件が発生した時に、知的・発達障害者の意思をどう捉えどう考えたらよいか。意思を把握し尊重するのは当然だが、その意思自体が抑圧、歪んでいたりすることに直面したとき、どうするのか。

菊地哲也（弁護士）「障害のある人の刑事弁護制度—横浜弁護士会での新たな取り組みから」

；障害のある人の入口支援および出口支援の手続きに関し、横浜弁護士会で取り組み始めた実践について報告しながら、今後の刑事弁護制度の課題について述べる。

辻川圭乃（弁護士）「『福祉アセスメント法』の提案」

；触法に関わった障害のある人に対する適切な支援を考える新しい法律『福祉アセスメント法』を提案する。

◎ポスター発表「メルボルンにおける裁判に関する調査 Assessment and Referral Court List (ARC)」

第二コロキウム『司法精神医学および矯正、社会内支援をめぐる課題』【1月25日 11:00～12:00】

障害特性と触法行為の関連性、司法精神医学、精神鑑定、施設内矯正と社会内支援、矯正プログラム等

安藤久美子（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所司法精神医学研究部精神鑑定研究室長）

「精神鑑定：あなたが教えてくれたことーある被告人との対話ー」

；障害のある人の精神鑑定とはなにか、どのような姿が見えるのか。ある被告人の精神鑑定から。

榎屋二郎（福島大学子どものメンタルヘルス支援事業推進室、関東医療少年院、精神科医）

「触法に至った障害者の矯正を考える～施設内支援と社会内支援」ー矯正や社会復帰の面から

◎ポスター発表「性犯罪再犯防止に向けた地域包括的支援プログラム SOTSEC-ID」

◎ポスター発表「イギリスにおける『暴力・攻撃的行動の予防とマネジメント』（Prevention and Management of Aggression and Violence; PMA トレーニング）」

第三コロキウム『地域を創るートラブルシューター活動実践』【1月24日 14:15-14:55】

各地でのTS実践や入口支援等に関わる実践報告や、今後の新しい人材養成をめぐって。

東京TSネットは、弁護士や福祉支援者、教員、親、医療関係者ほかがネットワーク方式で、地域での入口支援や新たな人材養成に取り組んでいる。

浦崎寛泰・中田雅久・山田恵太（弁護士）、及川博文（精神保健福祉士・社会福祉士）（東京TSネット）

「東京TS活動の実践報告が目指すもの

ー事例検討、出前講座、入口支援ネットワークづくりから」

「新たな刑事手続き入口支援のための人材養成

ー更生支援コーディネーター講座・ケース支援実践から」

第四コロキウム『地域へ繋ぐー地域生活定着支援センターと保護観察所の役割』【1月25日 12:00～12:50】

伊豆丸剛史（長崎県地域生活定着支援センター）

「触法者支援を“マクロ・メゾ・ミクロ”で捉える必要性和その実践」

国枝由希歩（保護観察官）

「地域社会の中で、更生保護は何ができるか・何をすべきか」

第五コロキウム『地域で支えるー生きにくさを抱えた人たちへの福祉支援の課題をめぐって』

触法を犯した障害者を地域や福祉でどう受け止め支えるか、虐待防止や身体拘束、行動障害のある人の支援

【1月24日 15:00-15:40】

松上利男（社会福祉法人北摂杉の子会）

「『たいへんな生きにくさを抱えた人たち』の福祉支援ー虐待防止や身体拘束、行動障害の支援

美和勇一郎・高木誠一（浜松協働学舎根洗寮）

「触法を犯した障害者を地域や福祉でどう受け止め支えるかー浜松協働学舎根洗寮の実践から」

第六コロキウム『地域で支えるー成年後見制度と意思決定支援』

【1月24日 15:40-16:00】

大門亘、明石洋子（PandAーJ大門・明石塾）

「地域で支えるということー大門・明石塾報告；成年後見制度と意思決定支援から見えてくること」

；大門・明石塾は2010年から、毎年1回の「障害のある人の成年後見と地域支援、意思決定支援」を検討してきた。毎年、受講生は通学生と通信生合わせて100名が参加しコロキウムを実施。

第七コロキウム『地域を耕すーK-p r o警察プロジェクト』

【1月25日 15:20-16:50】

【学会企画シンポジウム】ー第三基調講演（リチャード・ミルズ氏）を受けて

「わが国におけるK-p r o警察プロジェクトの取り組みと今後の展望」

野沢和弘「なぜ警察プロジェクトかーPandA-Jと全日本手をつなぐ育成会が進めてきたこと」

関哉直人「安永事件を通して考えることー全日本手をつなぐ育成会連合会がこれから進めたいこと」

村山園 「親だからできる警察プロジェクトー育成会連合会への期待」

コメンテーター 辻川圭乃

第八コロキウム『教育が考えるー親と学校が担うトラブル・シューター活動』 【1月24日 16:00-16:20】

平井威、深井敏行、大沼健司（PandA-J学校ばんだ）

「親と学校が担うトラブル・シューター活動ー教育現場がやるべきこと、やれること」

；学校ばんだは、全国の教員や支援者、親が毎年6回程度のコロキウムを開催してきた。

テーマは地域社会で安心・安全に暮らすために教員や親がやれること、児童・生徒のトラブル対応、教材作成、性をめぐる問題など。教員専用のメーリングリストで情報交換を実施。

第九コロキウム『わかりやすい情報とメディア研究ーマスコミがやるべきこと、やれること』

障害者の事件、障害者の制度、をどう伝えるか、本人にもわかりやすいニュースを伝えるために

第十コロキウム『これからの権利擁護のありかた研究ー障害者権利条約ほか』

障害者権利条約、障害者差別解消法、ほか政策と実践を検討し、提言等を考える：学会全体

《学会プログラムー日時プログラム》*1月24日25日のプログラムは以下になります。多少の変更あり。

1月24日受付9:00～（それ以前は会場入場不可）

◎午前；

【第一基調講演】 9:30-12:30

『自閉症スペクトラム障害と触法をめぐると課題』

◎午後；

【第二基調講演】 13:30-14:10

『共生社会を創る愛の基金がめざすこと』

【第三コロキウム】 14:15-14:55

『地域を創るートラブルシューター活動実践』

【第五コロキウム】 15:00-15:40

『地域で支えるー生きにくさを抱えた人たちへの福祉支援の課題をめぐって』

【第六コロキウム】 15:40-16:00

『地域で支えるー成年後見制度と意思決定支援』

【第八コロキウム】 16:00-16:20

『親と学校が担うトラブルシューター活動』

【PandA学会がめざすものシンポ】16:30-17:30

各発表者+野沢コーディネーター

1月25日受付9:00～（それ以前は会場入場不可）

◎午前；

【第一コロキウム】 9:20-10:50

『裁判と障害者事件をめぐると課題』

【第二コロキウム】 11:00-12:00

『精神医学や矯正をめぐると課題』

【第四コロキウム】 12:00-12:50

『地域へ繋ぐー地域生活定着支援センターと保護観察所の役割』

◎午後；

【第三基調講演】 13:40-15:10

『イギリス他での警察官に向けた自閉症スペクトラム障害の啓発・教育』

【第七コロキウム】 15:20-16:50

学会企画シンポジウム

『わが国におけるK-p r o警察プロジェクトの取り組みと今後の展望』 挨拶・終了 17:00

【参加申し込み】定員：130名、必ず事前申し込みをしてください（定員を超えた場合のみ翌日までに連絡）。

①所属と名前、②参加日（両日あるいは24日25日のみ）③緊急連絡方法

（メールか携帯等TEL）を記載。受付した旨の返信はしませんので当日ご参加ください。

info-panda-j@shiraume.ac.jp fax 042-349-7373

事務局：PandA学会事務局（東京都千代田区飯田橋2-7-1三政ビル2階）

参加費：両日参加 7000円（1日参加 5000円）。当日、会場で受け付けます。